



横浜陶芸友の会だより

第三十三回『友の会作品展』のお知らせ

今年度の『作品展』の日程を、再度お知らせいたします。

申し込み用紙と作品展の詳細については、12月初旬に会員の皆様に送付いたします。

出展料は、友の会への賛助会費です。区画はギリギリではなく、ゆとりのあるスペースで申し込み、多くの素晴らしい作品で会場が埋まりますようご協力ください。

【場所】 横浜市民ギヤラリー一階
(教育文化センター内JR関内駅下車)

【開催期間】 平成24年1月12日(水) ~ 16日(月) 6日間

【出展料】 一区画(幅30cm) 二千元

【特設コーナー】「陶宮」
とうみや

15cm角以内の大きさ。高さは自由。 ※出展料は無料

・絵付け、彫り、二、三段重ね など、楽しい作品を待っています。

第148号

平成23年

10月1日発行

「常滑焼・急須講習会」報告



片山白山先生

はじめての試みとして、本牧の「横浜市陶芸センター」の広い場所(12台のロクロ)を借り、常滑から片山先生をお呼びして、難しいと言われる急須に挑戦しました。

広報での募集では8月27・28日の土、日で24人を予定していましたが、締め切りを過ぎても参加者が少なく、役員会などを通じて呼びかけ、何とか半分の人数が集まりました。題材が難しく尻込みされたのか、興味があまり無かったのか。残念です。



陶芸センターでの作陶風景

結果的には、やはり一日での完成は難しく27日は部品作りで終わり、28日は太田さんの陶房を借り、半数が先生の指導のもと、削りの作業を行い、延べ二日間の講習会となりました。
焼成温度が千二百二十度以下と低いため完成したら、太田さんの窯で11月27日までに持ってきた分



をまとめて焼いてくれることになりました。
参加者は、久しぶりにロクロを引く方もいて先生に手直しをしながらがんばっていました。
懇親会は中華

街で行われ、十名が参加し、陶芸談義に花を咲かせました。
 果たして作品展に、この朱泥の急須が何個登場してくるのか楽しみです。
 色々ご協力、ありがとうございました。

第12 回ぐい呑みと盃を楽しむ会

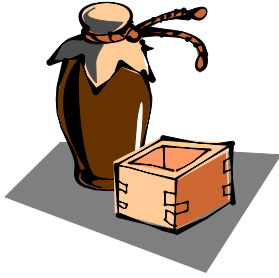
今年の“ぐい呑みと盃を楽しむ会”は加賀の料理を楽しんでいたかどうかと思ひ、左記のとおり企画致しました。
 自慢のぐい呑みで美味しいお酒と料理で楽しいひとときを過ごしませんか？

(自作のぐい呑み、盃をお持ち下さい。)
 (日時) 10月23日(日)
 (集合場所) 横浜市営地下鉄「上永谷」駅
 改札口13時15分
 (会費) 四五〇〇円

(幹事) 大日方 毅

名簿を参照の上葉書にてお申し込みください。

(申込期限) 10月15日(土)



聖坂養護学校文化祭・バザーのお知らせ

作品展に出品して頂いている聖坂養護学校で11月3日(木) 10時から15時半まで校内で文化祭・バザーが催されます。校庭で生徒さんたちの日ごろの力作や、軽食やらフリーマーケットさながらに沢山の品物が所狭しと並びます。是非おでかけ下さい。

お問い合わせは、鈴木和子まで

秋季焼成会報告

専修部 本橋

秋の焼成会は9月4日の作品受付から、素焼窯入れ・素焼き窯出し・釉薬掛け・本焼窯入れ・上蓋開け・本焼窯出し・9月25日の作品引渡しと、8日間にわたり延べ31名の部員により活動しました。

今回の参加人数は12名、作品点数は66点でした。今までは半分程しか埋まらなかった技能文化会館の窯も8部程埋まりました。この調子で次回の焼成会も多数の参加をお願いしたいと思います。

作品引渡し後、焼成した器に盛ったお茶菓子和広報部の小松さん差し入れの「おはぎ」を頂きながら、作品懇談会に入りました。



た。各自、自分の焼成作品を前に、構想、目標、出来ばえ等を話し、作陶談議は大いに盛り上がりました。
 今回の焼成会では、織部の作品と専修部が力を入れて取り組んできた白化粧の作品に良い出来が多く、皆さん満足の様子で、専修一同お手伝いできてうれしい限りです。



秋季焼成会に参加して

信岡美野里

秋季焼成会とは言え、今年の 9 月は暑かったので夏季焼成会と言った感がありました。

今回は専修部特製・織部釉がいい色なので、これを使って秋刀魚皿を作ることに決め、板皿をこしらえて持ち込みました。

受付の日・・・専修部員の皆さんがバタバタ準備してくださっていて、ふっ！と気付いたら、専修部員以外の参加者は 2 人だけ・・・???

今年に入って広報誌でもあれだけ紹介宣伝したんだけどなあ。と、この現実に驚きました。

私も今まで参加してなかった者だから、言えた柄ではないのですが、やはり、これはもったいないかな・・・と思いました。

その後の施釉日も楽しく終え。作品受け取りの日も、私の知らなかった織部釉の話などいろいろ教えていただけたりして、とても有意義な時を持つ事が出来ました。専修部員さん、ご苦労様でした。

今年のこの経験を生かして次回はもう少し形のいい織部の器をこしらえてみたいものです・・・楽しみが増えました。



訃報

去る 7 月 3 日療養中の山中武司氏が亡くなられました。生前は当会のために、多大なる御尽力をいただき、ありがとうございました。御冥福をお祈りいたします。

山中武司さんを悼んで

石井誠一

山中さんと始めてお会いしたのは、友会の懇親会の席でした。我々は入会したばかりで周りには知り合いもなく、うろろろしていたら、うまく二人席の小さな卓袱台が隅っこにあり、お互い挨拶を交わしたのが、最初でした。酒をかわし陶暦のことを話しました。そのうち松崎さんが近寄ってきて、事業部に誘われたが、松崎さんは覚えていないと言っていました。男二人目を付けられたのでしょうか。松崎さんはそのときは事業部長でした。酒のせいもあり山中さんと親しくなった勢いもあって、二人で即答でした。その後、お互いの家に行ったり来たりして陶芸談義をしました。そのうち私が窯を持ったので、山中さんの作品を我が家で焼くようになり益々親しくなりました。山中さんは古巣の日立の陶芸部にも出入りしていて、自慢は金泥を使わずに金色を発色する作品を嬉

しそうに話をしている顔を思い出します。また山中さんは酒の肴についてもウンチクがあつて、鱈のようなカチカチの干物を買って来て、水に戻してじっくり煮て御馳走してくださいました。作り方も伝授してくださいました。

山中さんが家を新築し窯を据えてからは交流は少し減りました。今思い出すとお兄さんが病を得たことを凄く気になさつてから、山中さんが気弱になったように思います。兄弟思いの繊細な方でした。そのまま病に負けるとは思いませんでした。長年友の会で活躍していただき有難うございました。教育委員会との折衝(後援と会計報告)は毎年大変苦労があつたと良く聞きましたよ。御冥福を祈ります。



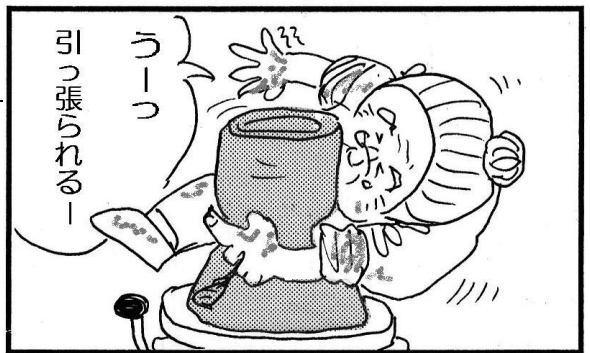
山中さんの作品

陶陶さん

第 70 号

あかほし

今年の夏は暑
かったですねえ



編集後記

身辺の整理をそろそろ考えなくてはと焼き物の駄作を捨て始めましたが、陶芸を始めた頃の物には下手くそだけど、ハッハ、笑ってしまう稚気があり、それに比べ、近頃の物は何やら分ったような焼き物で、段々つまらなくなってきました。又始めた頃の遊び心のある作陶に戻りたいものですが、行ったり来たり繰り返しが出来る間はまだまだ陶芸を続けられるのではと思っています。

吉良

今号は少々型破りな紙面になりました。小松さんの楽しい個性のおかげです。

信岡

☆役員会では今、友の会をどう発展させるのかという難問題を抱えています。私は役員だけであーでもないこーでもないと考え、会員の皆様がどのようなことを期待して会費を払われているのか、ということとをアンケートでもとって調査したほうが良いのではと考えてます。皆様はいかがですか？☆今号は旅行のお誘いがなく記事も少なめでした。お気づきですか。本文のフォントを一段階大きくしてみました。見やすければ次号からこの大きさをなんでしょう。☆漫画も大きく大サービズです。大いに笑って浮世の憂さを笑い飛ばしましょう。

小松

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより 第 148 号

(平成 23 年 10 月 1 日発行)
 発行人 横浜陶芸友の会
 会長 松崎 紀一
 編集責任者 広報部長 吉良謙

「お詫びと訂正」のお願い

- ★今年度の会員名簿の「組織および役員」の頁で事業部「吉川 勝」氏の記入もれ。
- ★再入会なされた「赤星 公人志」氏

の追加 が 2 点ありました。
 追加訂正をよろしくお願
 いたします 総務